

# 第2弾

# MTDLPを使ってみよう

OT推進チーム

# MTDLPとは・・・前回よりもう一步踏み込んで

1. **対象者中心**の作業療法、対象者がしたい・する必要のある・することが期待されている作業を重視した視点
2. 対象者や家族と**合意形成**を図り協働して意思決定を行う視点
3. ICFの分類に沿って対象者の生活を評価し相互関係を理解
4. 目標となる生活行為の工程分析に基づいたプログラムを立案
5. 目標を達成するために**多職種と連携・協働する視点**
6. PDCAサイクルにより、たえず改善を図っていくマネジメント手法

# 1.「生活する人」として生きる営みに焦点を

- 「**生活する人**」として、**生きる営みに焦点**を当て、心身機能や活動と参加の一側面だけ理解するのではなく、個人因子・環境因子までを踏まえ総合的に捉える包括的な視点
- 機能改善のみではない！！環境調整による補完や機能低下を補う活動方法の習得等、個人の活動や参加実現への方法は様々
- **背景因子**(本人の経験や役割、価値観等の個人因子)をしっかりと踏まえて活用、取り入れる
- しかし、機能面を軽視して「したい行為のみに焦点」をあてる訳ではない。偏りが出ないように**シートを活用**する！！

## 2. 過去～現在～将来の時間軸全体を捉える

- 生活を一貫して「**連続している生活**」として理解し、支援する包括的アプローチの視点
- 人の生活はICFの項目がそれぞれ作用しながらも**過去・現在・将来と連続する時間軸の中で変化している**
- 個人因子を聞き取り把握するプロセスが回復意欲を取り戻すために非常に大切。  
聞き取った事柄を**支援の内容や方法に反映させる**ことが重要！！

### 3.本人の活動から地域の社会資源活用まで全体を捉える

- 「作業の継続性」を実現するために、個人の活動から地域の社会資源の活用まで幅広くとらえる包括の視点
- つまり、「**意味のある生活行為を導入し継続支援に着眼**」すること
- そのためには、地域環境全体を捉えなければいけない
- 24時間365日をイメージするためには**生活行為の焦点化と長期的見通し、段階づけ、焦点化した生活行為の向上が他の生活行為に与える影響を予測**する必要がある

# 生活行為の継続性と地域での可能性について



# MTDLPのプロセスのおさらい

① インテーク	対象者がどのような生活行為を向上したいかを把握
② アセスメント	生活行為が困難となっている要因や強みを評価・分析し予後予測
③ 課題分析	解決すべき課題の抽出と設定をする
④ プランニング	改善のための計画を立てる
⑤ 実行	実際に支援する
⑥ モニタリング	効果を評価して次の改善プランを計画する
⑦ 計画修正・ 生活行為の引き継ぎ	計画を見直して修正し、次の担当者に引き継ぐ

# MTDLPで用いるシート ～まずは3つの利用から～

1. 生活行為聞き取りシート
2. 生活行為アセスメント演習シート
3. 生活行為向上プラン演習シート



2と3を合わせた「生活行為向上マネジメントシート」を活用しても良い

種類のシートを用いてマネジメントのプロセスを習得する！！

他にも、サブシートとして

興味関心チェックシート、医療への申し送りシート、生活行為申し送り表

生活行為課題分析シートがある。

# 生活行為聞き取りシート

対象者が困っていると感じている問題や改善したいと思っていることを聞き取り、生活行為の目標を明らかにする

- 聞き取りの前に役割や職歴、これまでに**どのような生活を送ってきたのか**等を確認しておく
- できるだけ**具体的な困りごとを聞き出せるように**心がけることが必要
- 生活行為が思いつかない際には、興味・関心チェックシートを活用
- 対象者のみでなく、**家族の思い**も聴取する

# 興味・関心チェックシート

- 生活行為46項目が挙げられている
- シート下方の空欄には地域特有の生活行為や趣味など、シートに載っていないものを記載できる
- 「してみたい」「興味がある」と思った理由や思いなども同時に聞き取りを行う
- 目標となるものが複数ある際には、優先順位を尋ねる

# 生活行為アセスメントシート

- シート記入の前に、本人のしているADLやIADL等の生活状況を把握するために既存の評価尺度を用いると良い
- 対象者のしたい行為が「なぜ上手く出来ないのか?」「どこに支障があるのか?」を考え、自立の可能性や今後を予測する
- 課題を分析する過程を分かりやすく表に表し、**対象者と共有すること**で一方的な評価や支援でなく、共に取り組む意識を生み出す

実行度: 合意目標に対してどの程度の頻度で実行できているのか

10: 十分実行できている    1: 全くできていない

満足度: 合意目標に対してどのくらい満足しているか (内容・充実感)

10: 十分満足している    1: 全く満足していない

# 生活行為向上プラン演習シート

- アセスメントシートに基づき、具体的な支援計画を立てる
- 実際に行う場面をイメージし、地域の資源を活用したプランを立案

**企画・準備力:**「いつ、誰と、どこで、どのような方法で、何の準備が必要か」を事前に考える能力

**実行力:**実際に実施するうえで必要となる能力

**検証・完了力:**生活行為を行いながら上手く進んでいるか検証し間違いやよりよい方法に途中で気付いて修正する能力。また、次の実施につなげることができる能力

# 生活行為申し送り表

- MTDLPを用いた支援を継続していくために積極的に申し送り表を活用
- 支援内容、希望する生活行為、現在の状況、アセスメントのまとめと解決すべき課題、継続するとよい支援プログラムを掲載
- 支援において実施の条件や禁忌などがある際には「特記事項」に記載を行う

# 今回はここまでとなります

次回(第3回目)は  
「MTDLPは本当に必要？」です

## 参考・引用文献等

- 一般社団法人日本作業療法士協会：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント. 医歯薬出版株式会社, 2015.
- 日本作業療法協会ホームページ <https://www.jaot.or.jp/> 2022/06/01